

裁判所

Court of Justice



裁判所は、こんな

国民に利用しやすく分かりやすい裁判の実現・適正迅速な裁判の実現という使命を担っている裁判所は、新しい時代に対応できるこんな「人」を求めています

裁判の仕組み、それを支えている裁判所の仕組みに通じ、様々な事件や課題に対して、何が問題点であるかを的確に把握し、その解決のためにはどのように対処すべきかを柔軟に考えることができる人

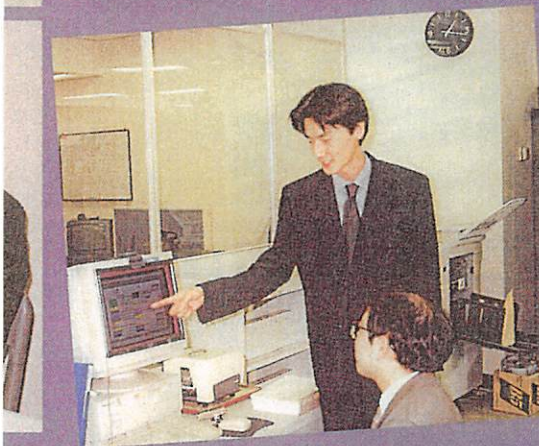
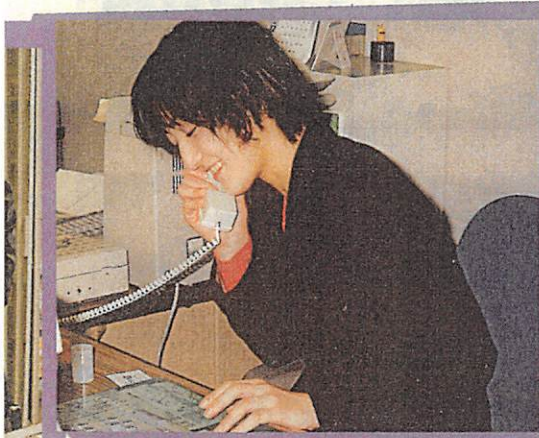
自分が何をすべきかを理解し、裁判所を訪れた人々や関係部署との相談・交渉・連絡・協議などを誠実に、かつ、公平に行うことができる人

いまの自分や様々な仕組みについて、何が優れているか、何が足りないかを探究し、どのように改善していくかを考え、ほんと湧き出てくる意欲とほとばしる熱意をもって、新しい発想で工夫をこらし、前向きに取り組むことのできる人



いつも明るく笑顔をたやさない人

人を求めています



そして、あなたを...

最高裁判所(東京)

最上級、最終の裁判所で、高等裁判所の裁判に対する不服申立て(上告、特別抗告)を取り扱います。

法律や政令が合憲か違憲かについて最終的に判断を下すので「憲法の番人」とも呼ばれています。

高等裁判所(東京、大阪、名古屋、広島、福岡、仙台、札幌、高松)

地方裁判所、家庭裁判所等の裁判に対する不服申立て(控訴、抗告)などを取り扱います。

地方裁判所(各都道府県の県庁所在地 (ただし、北海道は札幌、函館、旭川、釧路))

民事事件及び刑事事件のほとんどすべての訴訟事件の第一審の裁判を取り扱います。

家庭裁判所(各都道府県の県庁所在地 (ただし、北海道は札幌、函館、旭川、釧路))

家庭に関する事件(家事事件、少年事件)を総合的に取り扱います。

簡易裁判所

比較的小額の民事事件と比較的軽い罪の刑事事件の裁判を取り扱うほか民事の調停も取り扱います。



最高裁判所



神戸地方裁判所

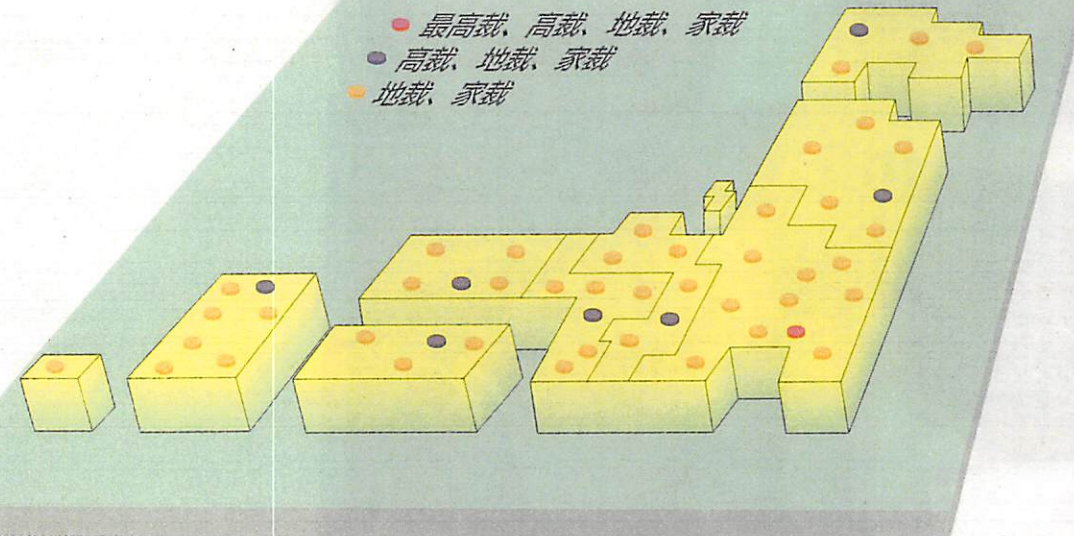


大阪高等裁判所



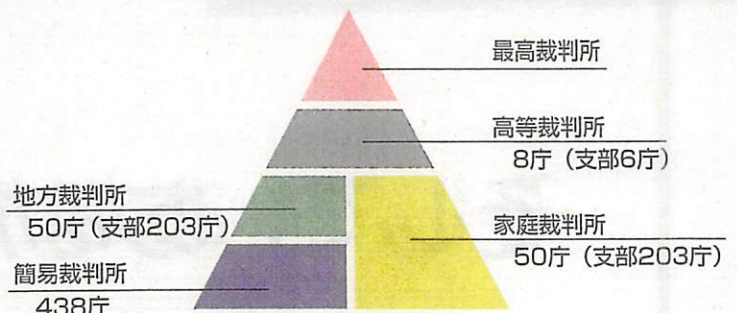
長崎家庭裁判所

● 最高裁、高裁、地裁、家裁
● 高裁、地裁、家裁
● 地裁、家裁



組織・機構

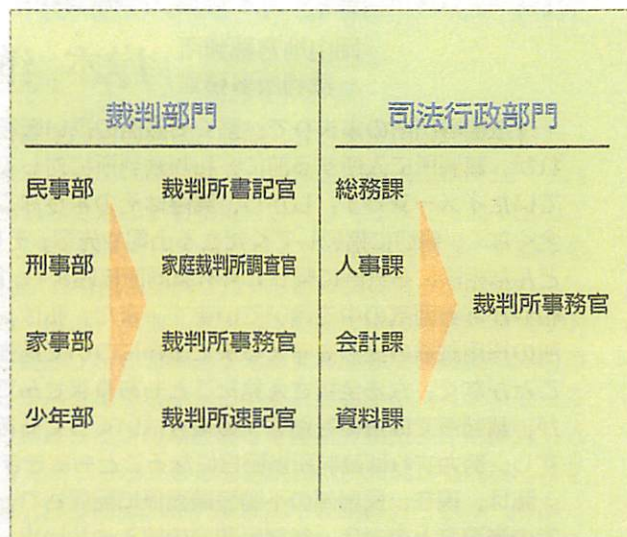
STRUCTURE・ORGANIZATION



裁判所の機構は、大別すると、裁判部門と司法行政部門に分けられます。

裁判部門では各種の事件を裁判官が審理裁判しますが、その裁判を支える機関として裁判所書記官、家庭裁判所調査官、裁判所事務官、裁判所速記官等が置かれています。

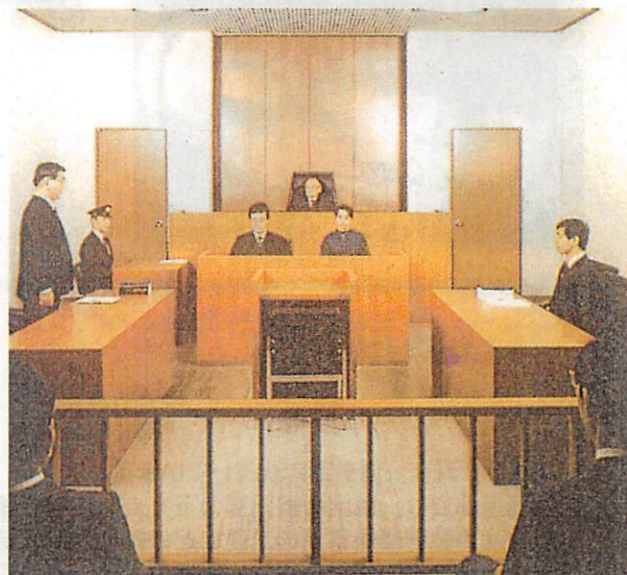
司法行政部門では、事務局（総務課、人事課、会計課、資料課等）が設置され、裁判事務の合理的、効率的な運用を図るため、人や設備などの面で裁判部門を支援する職務を裁判所事務官等が行っています。



ラウンドテーブル法廷

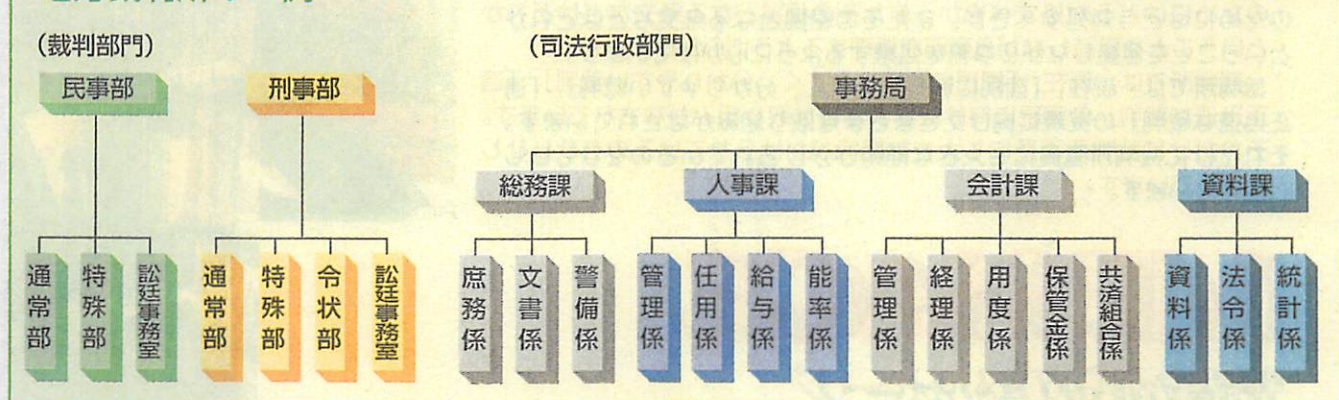


最高裁判所大法廷



民事裁判

地方裁判所の一例



裁判所事務官

各裁判所の事務局や裁判部に配置されます。裁判部では、裁判所書記官の下で各種裁判事務を担当し、事務局では総務課、人事課、会計課、資料課等の司法行政事務全般を処理します。

事務局と裁判部とは、互いに連携をとりながら活動しています。社会環境の変化、



和やかで働きやすい職場

岡山地方裁判所 岸本 洋明
裁判所事務官

「法律専門家の集まりで、堅くて敷居の高い職場」これが、裁判所に入所する前に、私が裁判所に対して抱いていたイメージです。しかし、実際はそのようなことは全くなく、親切に指導して下さる上司や先輩、そして、どんな相談にも気軽に乗ってくれる同僚に囲まれ、毎日、和やかな雰囲気の中で働いています。また、私は、裁判所の採用試験の受験を考えるまで法律について勉強したことがなく、六法全書さえ見たこともありませんでしたが、裁判所では法律を勉強する機会はいくらでもありますし、努力すれば裁判所書記官になることもできます。

私は、現在、民事部の不動産競売係に配属され、窓口での当事者との対応、各種手数料の納入や払い出しなどの事務を担当しており、責任が重大で大変やりがいを感じています。

また、裁判所の有志で結成しているバレーボール部に所属しており、週に1度練習をしています。このバレーボール部では、他県の裁判所のチームとも試合をし、交流を深めています。

和やかで働きやすく、かつ、スポーツを楽しむ人も多い裁判所に興味を持っていただけたら幸いです。

大きな期待をうけて

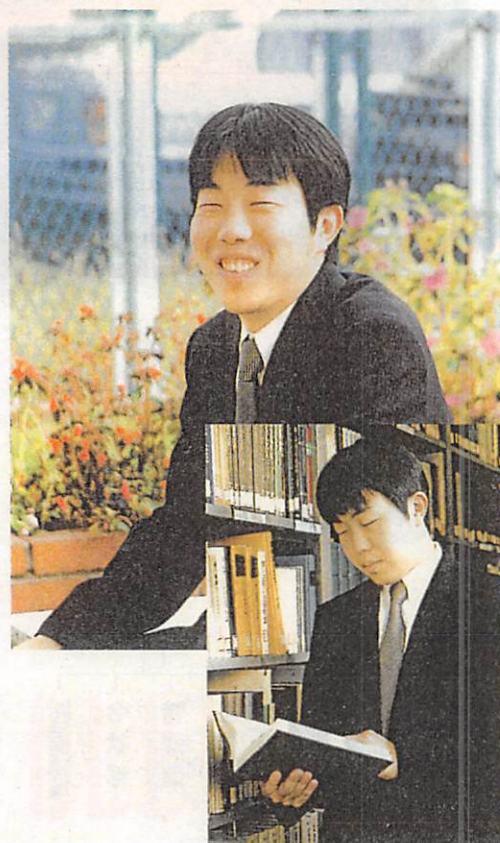
長崎地方裁判所 高崎 良太
裁判所事務官

私は、現在、刑事部に所属しています。

刑事部では、裁判所書記官の下で、検察官や弁護士との公判期日の打合せや裁判関係書類の送達などの各種裁判事務のほか、法廷立会などの事務を担当しています。国民の人権に直接関わる刑事裁判に携わることができ、やりがいと責任の重大さを感じながら取り組んでいます。

採用当初は、法廷の雰囲気緊張したり、初めて聞く法律の専門用語に混乱したりで、与えられた仕事をこなすのが精一杯でした。最近は様々な疑問点について問題点がどこにあるのかを把握し、その解決のためにはどう対処すべきか、またその根拠となる条文などはどれかということ意識しながら事務を処理するように心がけています。

裁判所では、現在、「国民に利用しやすく、分かりやすい裁判」、「適正迅速な裁判」の実現に向けたさまざまな取り組みがなされています。それだけに裁判所職員にも大きな期待がかけられているのをひしひしと感じています。



MESSAGE

先輩からのメッセージ

経済事情の変動及び価値観の多様化によってますます増大するであろう司法需要の中で、裁判所の本来の機能である「裁判」が適正迅速に行われるように、様々な場面、様々な部署で裁判所事務官が活躍しています。

裁判所事務官

様々な経験を大切に

最高裁判所事務総局刑事局 裁判所事務官 齋藤 真佐子

私は、民事、刑事、家事の裁判所書記官事務を経験した後、裁判所事務官として最高裁判所事務総局に勤務しています。

現在、刑事局で刑事裁判における通訳・翻訳、外国人事件一般に関する事務や、国際司法共助に関する事務などを担当しています。外国人刑事事件処理に関する諸施策の立案に携わるほか、全国の裁判所からの執務上の疑問や問合せなどに答えるために調査を行ったり、外務省や法務省などと連絡をとることもあります。

このように、最高裁判所の事務総局は、全国の裁判所が仕事をしやすいようにする、いわば縁の下の力持ちのような存在です。その一方で、大きな視野で現在、そして将来の裁判所の仕事を考えなければいけない職場でもあり、大変やりがいがあります。もちろん裁判所書記官として得た知識や経験は、現在の仕事に密接に関連していますが、大学で学んだ英米文学の知識を国際司法共助関係などで活用できることもやりがいにつながっています。

裁判所は自分の努力次第で他の職場では経験できない様々な仕事を経験できる職場です。みなさんと一緒に仕事ができる日を楽しみにしています。



柔軟な発想を活かそう

札幌高等裁判所 裁判所事務官 蒲田 奈津子

私は人事課能率係に所属し、研修やレクリエーションの企画、実施などを担当しています。研修を企画する際には、研修員が楽しみながらいかに効果的な研修を受けられるかということを念頭に置く必要があります、アイデアと工夫が要求されます。

新採用職員研修では、事件の当事者との対応のしかたを学んでもらうためにロールプレイングを企画しました。自分が新人だった頃の経験を思い浮かべてシナリオを作り、臨場感を増すために実際の電話機を小道具として使用しました。当事者役の講師の質問に、初めは戸惑い、ぎこちなかった研修員が、最後にはハキハキと受け答えしていたことが印象的でした。この時は、私も研修員と一緒に達成感を味わうことができました。

仕事をしていく上で、私が特に重要だと感じているのは、「創造力」です。忙しい毎日の中では、つい固定観念にとらわれた仕事をしがちになりますが、柔軟な発想で仕事ができるように、日頃から広く社会一般に目を向けて、自分の世界を広げるように心がけています。私の趣味は、オートバイを駆って全国各地にツーリングに出かけることですが、初めて訪れる土地での人との出会いや交流も、私の「創造力」を大いに成長させてくれる機会になっています。

あなたの柔軟な発想を裁判所で活かしてみませんか。



裁判所書記官

法律の専門家として、固有の権限が付与されており（裁判所法60条）、その権限に基づき、法廷立会、調書作成、訴訟上の事項に関する証明、執行文の付与等の職務を行います。また、新民事訴訟法が平成10年1月から施行されたことにより、裁判所書記官の新たな権限として、支払督促及び仮執行宣言の発布、訴訟費用額の確定等の職務を行います。

さらに、法令や判例の調査をしたり、裁判が円滑に進行するように、コートマネージャーとして、弁護士、検察官、訴訟当事者等と打合せを行うのも裁判所書記官の大きな役割です。



心の通った裁判を

東京地方裁判所 裁判所書記官 赤穂 珠代

法廷で着用する職服はなぜ黒いのか。それは、黒が他の色に染まらないように、私たちも当事者の一方に偏ることなく常に公平な立場にいることを意味します。

私は、現在、刑事部に所属しています。刑事事件はとても人間くさいものです。怒り悲しむ被害者、被告人となった我が子を嘆き、寛大な処分を懇願する親、自分のしたことを後悔したり、はたまた自分の言い分を主張する被告人。様々な人間模様が、法廷でドラマのように再現されます。

最初は、法廷に立つ人に自分の感情を移入し、精神的に疲弊したこともありました。しかし、自分が着ている黒い職服の意味を改めて考えたとき、自分の職務は、公平な立場で冷静に事件を見つめ、適正に処理していくことではないかと気づきました。

事件数が増え、迅速さが要求されたり、仕事に慣れてきたりすると、事件を「処理」するだけになりがちですが、生身の人間と対峙する裁判は、適正迅速で、かつ心の通ったものでなくてはなりません。さまざまな分野に目を向けることによってバランス感覚を身につけ、何事にも全力で取り組むことが、生きた裁判を担う裁判所書記官として必要ではないかと感じています。

公私ともに充実

名古屋地方裁判所 裁判所書記官 沢田 和弘

私は、民事部で裁判所書記官をしています。

民事訴訟は訴状の受付から始まります。裁判所書記官は、裁判官の訴訟運営のスタッフとして、訴訟手のあらゆる場面に関わりますが、訴状の受付の段階では、訴状が法的に見てその主張に見合った記載になっているかどうかを慎重に審査します。訴状の多くは弁護士が作ったものですが、ときには間違いや不十分な箇所を発見することもあります。そのような場合に、原告に補正を促すのも裁判所書記官の大切な仕事の一つです。「細かいところまで見てもらって助かった」と感謝された時は嬉しくなります。

さて、仕事をしていく上では、気持ちをリフレッシュすることも必要です。私も夏はキャンプ、冬はスキーを楽しんでいます。今年の夏は、結婚したばかりのかわいい(?)妻と2人でタイに旅行し、象に乗ってきました。

とかく裁判所は堅いイメージを持たれがちですが、職場の雰囲気は和やかですから、肩ひじ張らずにのびのびと仕事ができる場所だと思います。

